令和３年度科学研究費助成事業「新学術領域研究（研究領域提案型）」に係る事後評価結果

領域番号	4801	領域略称名	思春期主体価値
研究領域名	脳・生活・人生の統合的理解にもとづく思春期からの主体価値発展学		
領域代表者名 （所属等）	笠井　清登 東京大学・医学部附属病院・教授		

（評価結果）

A（研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの成果があった）

（評価結果の所見）

人間が人生においてどのように長期的行動を選択し、ウェル・ビーイングを目指すのかという問題に挑むために、本研究領域は、家族からの継承価値に基づいた受動的行動から、社会との相互交流によって個人内に形成される主体価値に基づいた能動的行動への転換が生じる思春期に注目し、その価値の発達の特徴を明らかにすることを目標に研究を推進した。主体価値の神経基盤や、主体価値と生活習慣（基底生活行動）やウェル・ビーイングとの関係についての実証研究および理論構築、海外コホートとの国際共同研究など、計画研究、公募研究ともに多くの成果を上げており、国際的な学術貢献も多く成された。また、活発な国際連携研究を通じた若手研究者の育成や、アジアにおける思春期研究拠点の形成にも積極的に取り組んでいる。さらに、日本初の大規模思春期コホートである東京ティーンコホートを構築し、そのデータを基盤として、社会疫学と脳科学の融合学術分野である population neuroscience や、継承価値の脳・行動基盤を検討する transgenerational neuroscience といった発展性のある研究分野を開拓した点は特に高く評価できる。

今後この学術領域が更なる深化と発展を遂げ、例えば思春期の主体価値形成に大きく影響しうる友人間での価値の水平伝達なども含めた、主体価値の創発メカニズムについての統合的で理論的な説明がなされることを期待する。また、自然科学と人文・社会科学とを統合した視座を取り入れることにより、「価値」の概念の科学的理解が一層深められることを期待したい。